

さい帯血バンク Now



2005年9月15日発行
日本さい帯血バンクネットワーク
発行者：鎌田薰(会長)
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社東館6階
TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417 <http://www.j-cord.gr.jp/>

第25号

さい帯血バンク事業次世代デザイン

「あり方」への提言公募

日本さい帯血バンクネットワークは、事業を開始してから6年を迎えました。将来のさい帯血バンクの全体像やあり方などを検討するために「さい帯血バンク事業次世代デザイン会議」が発足=24号第2面既報=しましたが、より良い提言をするために、多くの方々からのご意見・ご提案をお願いすることになりました。

事業開始からこれまでに、11バンクのさい帯血保存総数も当初目標の2万件を達成し、さい帯血移植例数も順調に増加して2400例を超えており、移植成績の解析・評価などが実施されています。しかし、さい帯血バンク事業には解決すべき課題があることも周知の事実です。

そこで発足したのが「次世代デザイン会議」です。7人の委員が検討を続け、提言をまとめることになっていますが、7人だけでは不十分だと考えました。

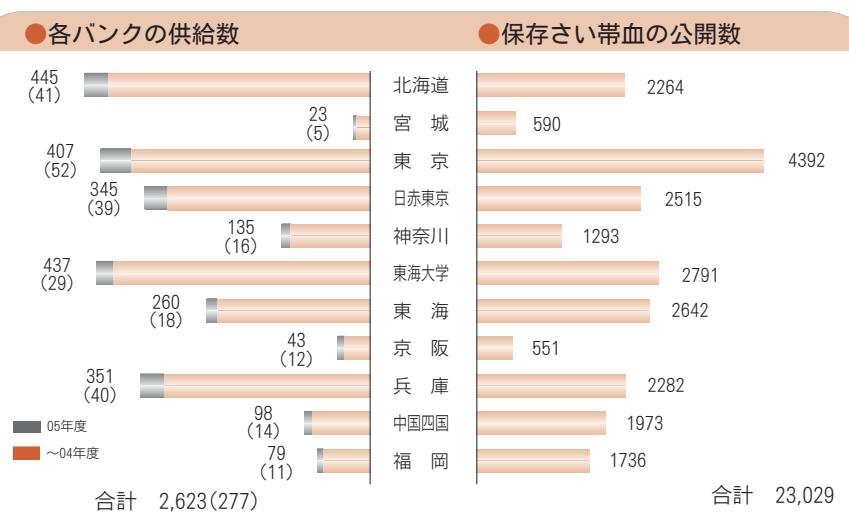
懸案事項としては①さい帯血バンク運営の財政的問題②保存さい帯血の品質③さい帯血の供給システム④さい帯血バンクの規模⑤日本さい帯血バンクネットワークの組織——などがあります。それぞれの課題を考えていただく上で次の参考例をご活用ください。

▽財政問題=国庫補助金に依存している現状に対し、安定した財源を確保する方法はないのか、診療報酬点数化はできないのか▽品質=保存時にGMP（Good Manufacturing

Practice）に準拠した厳密な処理を行って血液製剤として扱う必要があるか▽バンクの規模=現在の11バンク15保存施設は適切な数か。これより増やしたほうがいいのか、集約の方向か、採取施設を空白県に一つは設置するのか。保存数は2万件とされたが、これは移植細胞数を考慮されておらずHLA一座不一致までの移植用さい帯血を見つける観点からの数であり、体重50kg以上の患者には十分でないため、4万～5万の保存が必要ではないか。

ご意見・ご提言の記載様式・字数などの制限は特にありません。郵便あるいはEメールでお寄せください。

■締め切り 10月末日 ■送付先
日本さい帯血バンクネットワーク事務局 次世代デザイン会議（詳しくはホームページまで）



(注) ① グラフデータは2005年8月末現在
② 左のグラフの数字は累積の供給数、カッコ内が05年度供給数
③ 左のグラフは累積の供給数であり、複数さい帯血同時移植（2本のさい帯血に同時に移植）が11例行われているため、累積実施移植数は、2393例。複数さい帯血同時移植は、02年度3月、03年度3月、4月、5月、7月、10月、2月、04年度4月、5月に実施。

訂正 24号第1面のグラフ「保存さい帯血公開数」に、供給数・移植数を加算していました。

バンク名	誤	正	東海大学	3268	2803
北海道	2705	2257	東海	2892	2603
宮城	597	573	京阪	566	520
東京	4842	4327	兵庫	2662	2203
日赤東京	2821	2445	中国四国	290	1929
神奈川	1366	1260	福岡	1793	1712



2

さい帯血バンクNOW

リーフレット リニューアル

日本さい帯血バンクネットワークのリーフレットがリニューアルされることになりました。ネットワーク発足から6年余りが経過しましたが、今回が初めての模様替えです。

これまでのリーフレットはさい帯血採取病院の産科窓口での備え付け、



あらゆる視点に対応

母親教室での配布などで主に利用されています。ですから、さい帯血の提供に関する事柄、留意点などを内容とするQ&A形式で構成され、主に提供されるお母さん向けに作成されました。

ネットワーク発足当初は「さい帯血」「さい帯血移植」「さい帯血バンク」という言葉にも馴染みが薄かったのですが、いまでは全国11のさい帯血バンクと提携している採取病院は95となり、約6万人のお母さん方からご提供いただき、保存されてい

るさい帯血は当初目標の2万個に達し、移植実績は骨髄バンクを介した骨髄移植と肩を並べるまでになり、「さい帯血」の意義が社会に認知されつつある状況と思われます。

こういった事情をくんで、今回は提供されるお母さんのみならず、「さい帯血～いのちのきずな～」を取り囲むあらゆる視点に対応していくことをひとつの心組みとして作成しました=写真は表紙。

引き続き皆さまのご理解とご協力ををお願いいたします。

きずなちゃん、啓発シールにも

さい帯血バンクネットワークでは、現在さい帯血を提供いただいたお子様の母子手帳に貼っていただくために、きずなちゃんをデザインしたシールを作成し、各さい帯血バンクを通じてお渡ししています。

このシールが大変好評なため、ど

なたにも、どこにでも貼っていただけるよう、普及啓発用にきずなちゃんのシールを作成しました。

きずなちゃんのいろいろなポーズと、さまざまな大きさのシールです。携帯電話などに貼ってご利用ください。

い帯血バンク関係者が集まりますが、もちろん一般の方も参加できますので、どうぞお集まりください。



【2005年大阪発、さい帯血バンク推進全国大会】

11月19日（土）午後2時～5時
大阪府立成人病センター・講堂
(大阪市東成区中道1-3-3)

全国大会は11月19日に大阪で

日本さい帯血バンクネットワークでは、来る11月19日（土）大阪府立成人病センターにおいて「2005年大阪発、さい帯血バンク推進全国大会」を年次報告会を兼ねて開催します。

この大会では、わが国におけるさい帯血バンク事業の現状とともに

に、さい帯血移植の実績や治療成績についても詳しくご報告します。また、この大会では、京阪さい帯血バンク、兵庫さい帯血バンク、東海臍帯血バンクの3バンクから独自の発表をしていただくことになっています。

今回の大阪大会には全国からさ



すこやかに、幸せに。
明日への夢、描きたい。

NIPRO

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。眞の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。

NIPRO

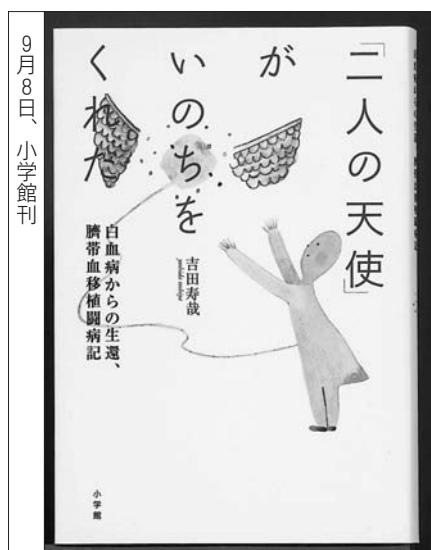
ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号



「二人の天使」がいのちをくれた

吉田さんが闘病記を出版 さい帯血移植を経て社会復帰

移植に向けて準備万端だったのに、骨髄バンクのドナー候補者が、土壇場でHLA不適合だった——。折しも妻が身ごもっていることがわかり、「まだ見ぬ子」に自らが生きてきた証を残そうと書きためた日記がありました。さい帯血移植を経て社会復帰を果たした今、その「遺書」が1冊の本となって陽の目を見ました。著者の吉田寿哉さんに、さい帯血移植や出版への経過などを報告していただきました。



9月8日、小学館より「『二人の天使』がいのちをくれた」というタイトルで本を出版いたしました。「二人の天使」とは、発病のとき妻のお腹のなかにいた娘と、北海道臍帯血バンクを通じていただいたさい帯血の持ち主、名前も知らない男の子のことです。前者は、私に生きる意味を与えてくれ、後者は、あらたないのちの火を灯してくれた、まさに自分にとっては二人とも天使そのものなのです。

結婚半年後に発病

医師から「急性骨髓性白血病」と診断されたのは、2003年の晩夏のことでした。健康を過信すらしていた私は、それがどうしても信じられず、しばらく受け入れることができませんでした。しかし、結婚してわずか半年、妻が妊娠5ヶ月の当時、とにかく死ぬわけにはいかず、なんとし

ても根治するのだ、と抗がん剤治療に臨みました。

5カ月にわたる抗がん剤治療のあと、社会復帰さえしていたのですが、強化・維持療法を待たずして再発、3月末より再寛解を目指す抗がん剤治療をまた始めねばなりませんでした。このとき、両親が高齢で一人っ子の私が決断したのが、骨髄バンクを通じての非血縁者骨髄移植でした。病院も転院し、HLAの血清型が合致する7名いたドナー候補の最後の一人から移植を受けようと準備万端用意していた矢先に、DNAタイプングで2タイプ違うことが発覚、リスクの高いミスマッチ移植にならざるをえないと宣告されたのです。

絶望の淵から生還

絶望の淵に立たされ、不安で恐怖に怯えていたそんなとき知ったのが、さい帯血移植という移植法でした。消去法で残ったその移植法でしたが、実績、会った先生、病院の環境などすべてに満足、迷わず東京大学医学研究所附属病院に再転院し、2004年8月12日、さい帯血移植を実施したのでした。

途中、救命の緊急手術等ありましたが、先生方の努力もあってなんとか克服、12月に退院し、半年弱の自宅療養を経て、この6月より社会復帰も果たしました。本当に入院時からは考えられない高いQOLで、妻と娘に囲まれて幸福な毎日を過ごしています。もし、さい帯血バンクが



娘の遙香ちゃん、妻の順子さんと

なかつたら、間違いなくこんな日々を過ごすことはできなかったでしょう。日本さい帯血バンクネットワーク、採取病院、移植病院、そしてさい帯を提供してくれた全国のお母さんに、この場を借りて感謝の気持ちを伝えたいと思います。

闘病者への支えに

もともとは発病を知ったとき、万が一のときに、父として娘に残す遺書として書き始めた日記がベースになっています。退院した後、暇に任せてほったらかしだったその日記をまとめているうちに、現在闘病中の方々の力になりたいと思うようになりました。さい帯血移植について、いろんな人にもっともっと知ってもらいたいとも思うようになりました。

そして私のような、ドナーのいない血液疾患の患者が一人でも多く助かるように、日本さい帯血バンクネットワークを応援したいと思うようになりました。読んだ方が元気になるような、「明るい闘病記」を目指しました。(著者の希望により、本の印税の一部は日本さい帯血バンクネットワークに寄付されます)



細胞数基準を高く設定

採取病院
訪問記⑨

京阪さい帯血バンク

現在、さい帯血移植の現場がさい帯血バンクに望む最大の関心事は「より細胞数の多いさい帯血を移植すること」と言えるかもしれません。日本さい帯血バンクネットワークでは保存するさい帯血の有核細胞数の最低基準を 6×10^8 以上と定めていますが、各さい帯血バンクでは独自の基準を設けて、より細胞数の多いさい帯血を保存しようと努力しているところもあります。



さい帯に針を刺して採取＝サンタマリア病院で

京阪さい帯血バンクでは徐々に調製開始細胞数の最低基準を引き上げてきましたが、今年7月からは 10×10^8 とハードルを高くしました。最低基準の引き上げは、採取しても細胞数が足らず、保存に至らないさい帯血が増えることになりますが、それでも京阪さい帯血バンクでは採取総数の4割近くがこの厳しい基準を満たしているとしています。この効率性の良さは、採取現場（産科）の努力と技術の高さにはかなりません。採取病院を訪問して、その現状をお聞きしました。

「高低差」がカギに

松下記念病院（大阪府守口市）産婦人科の保田仁介部長は「採取現場では細胞数のことはわかりません。ただ、より多くの液量を採れるかどうかです」と語りますが、そのポイントは『高低差がカギ』だそうです。出産後すぐに赤ちゃんはお母さんの

胸の上に抱きかかえられます。これはカンガルーケア、カンガルーの母親が赤ちゃんを袋の中で抱くイメージです。この状態でさい帯を結紮しますが「さい帯が胎盤より高い位置にある」ことで、さい帯血が胎盤側に行くようにします。



松下記念病院で保田部長（右）とさい帯血を提供した橋本知恵美さんと赤ちゃん

「昔はペチャンコになってからさい帯を切るように教えられましたが、これで赤ちゃんが多血化傾向になることも避けられます」と保田部長。そして手早くさい帯をカットして針を刺し、さい帯血を採取しますが、この時採血バッグはなるべく床近くに置きます。この高低差で、より液量の多いさい帯血を採取できるようになりました。京阪さい帯血バンクの採取病院では、保田医師の提唱するこの採取方法を実践しています。

課題は土曜の採取

さて、京阪さい帯血バンクは全国11のバンクの中で最も新しくネットワークに参加（2003年春）しましたが、歴史は古くネットワーク発足前の近畿臍帯血バンク時代からのスタッフもたくさんいます。京都第二赤十字病院（京都市上京区）産婦人科の奥村次郎部長もその一人で、かれこれ10年も前からさい帯血の採取を行ってきました。奥村部長は「当時は経験もなく、文献を調べると帝王切開

で採取するのが細菌の混入もなく効率よく採れる、というので始めました」ということですが、もちろん今では経産分娩でも採取しています。



さい帯血を提供した二葉ちゃんを囲む相川かおり・直人ご夫妻と奥村部長＝京都第二赤十字病院で

ところで、さい帯血提供を希望するお母さんと採取スタッフがさい帯血バンクに要望している声です。それは「土曜日の出産でも採取してほしい」です。分離調製作業の都合から現在は対応できませんが、この辺がさい帯血バンクの課題のひとつです。

定期的に教育訓練

京阪さい帯血バンクは採取病院に対し毎年、採取施設選定委員会による現地調査を行い厳しいチェックをしています。さらに、各施設ごとに採取スタッフを集めて定期的に教育訓練を行うなど、より良いさい帯血採取ができるように努力しています。その成果が、最も若いバンクにもかかわらず、移植の実績数となって表れているようです。

あ　と　が　き

日本さい帯血バンクネットワークでは、ホームページのリニューアル作業を行っています。より使いやすく、必要な情報がより取り出しやすくなるように、全面的な改定になります。また、シンボルキャラクターに「きずなちゃん」が前面に出ます。お披露目はこの秋の予定です。